

第四期（2015年度）事業報告書

（平成 27 年 4 月 1 日～平成 28 年 3 月 31 日）

法人の名称 特定非営利活動法人 アーモンド コミュニティ ネットワーク

1 事業の成果

<目的>

多様な個性・文化・価値観を持つ人々で構成されたコミュニティの中で、(1)人と人とを隔てる様々な問題に対して働きかけ、隔ての中垣を越えて ところを支え合い、健やかに共に生きるために (2)「相手の話をより良く聴くこと」「傾聴活動」を土台とした支援事業を行い、市民が孤立することのない (3)共生の社会と平和なコミュニティの実現に寄与することを目的に活動を展開した。(定款より)

<実施状況>

平成 27 年度の法人事業の総動員数は乳幼児から後期高齢者までの男女、延べ 4,500 人以上であった。その内で北山田拠点‘あ・る・く’で開催した 263 日間の各事業には延べ 3,500 人以上が参加した。今年度も各事業の拡大が見られ、受益対象者数と従事者人員数、社会人ボランティア、大学生ボランティア、高齢者ボランティア数が増大した。「傾聴によるところの支援活動」を土台に、生きづらさの問題を抱える子ども・青少年・大人、外国に繋がる人・障がいのある人・高齢者とその家族に向けて、地域での伴走型支援事業をさらに発展させた。

(1) 人と人とを隔てる様々な問題に対する働きかけ・・・

A「子ども、青少年の問題」、B「外国に繋がる家庭の問題」、C「障がいと成長の問題」、D「不登校、ひきこもりの問題」への支援を、乳幼児期子ども期から青少年期までのこどもと親が制度の狭間に落ちることがないように、切れ目のない伴走型支援体制を自主事業として構築し、連携するネットワークの形成につとめた。

A「子ども、青少年の問題」

1) 横浜市全区事業の「都筑区寄り添い型学習等支援事業」（小中学生対象）は、登録者数 33 名で参加延べ人数 1,674 名であった。都筑区は生活保護世帯に含まれる母子世帯の割合が 9.8%（横浜市平均 7.5%）、また障がい者世帯 15.6%（〃 12.7%）と多い。子どもの発達障がい、親の心と身体の病気、親が外国籍、重い障がいのある兄弟姉妹がいる、長期の不登校状態、家庭内に自分の学習スペースがない等の複合的な課題を抱える中学生が見られる。この春は、不登校状態であった 5 名を含む中三生 12 名全員が高校へ進学した。今年度は新たに大学生学習支援ボランティアの参加が増え、また地域の民生委員や住民ボランティアのネットワークから経験豊かな学習支援者が活動に加わる等、これまで以上に支援スタッフの参加充実が見られた。困難を抱える子どもたちが、常設型・伴走型の安心できる居場所につながり、ともに生きる仲間と出逢うことで、おおらかに笑うことが増え、将来に対しても意欲的になった。諦めていた高校進学に向けて基礎学習の再開、不登校状態からの面接やスピーチの練習等、真摯に取り組んだ一年であった。子どもたちの参加で親たちの安堵感が増していくのが見られ、子どもが元気になるにつれて母親の心身の回復が共に進んでいった。

都筑区に多い母子世帯と障がい者世帯への支援の取り組みを拡充することが今後の課題である。法人は母と子が気軽に「居場所」に繋がる入口の活動として、今年度「アーモンド♡こども食堂」開室の準備を進めた。

2) 自主事業「寄り添い型青少年支援事業‘ともにあ・る・く’」では、一般世帯の子ども・青少年の不登校・ひきこもりの相談件数が増大した。対象年齢は20代以上が増え、問題の長期化も見られた。不登校、教育、発達障がいの問題に対し、親の相談を受けながら支援を進めた。また神奈川県、横浜市、都筑区役所、都筑区社会福祉協議会、小中学校、医療機関、地域療育センター、児童相談所、NPO法人等との連携をさらに深めた。生活困窮世帯の16歳以上の青少年のための居場所支援と相談支援を無料で継続できるように、27年度は都筑区社会福祉協議会「ふれあい助成金」を申請し受託した。今後も「都筑区寄り添い型学習等支援事業」の卒業生と、地域で未だ支援に繋がっていない青少年を対象に資金面も拡充する必要がある。

3) 「KKBS北山田こども放送局活動」は、子どもたちが将来に向かって自らの生活と仕事について考え、また地域社会で多様な人の生き方を知る体験活動として実施している。今年度は日々接している当法人の理事長を取材し、北山田駅から北山田拠点への徒歩経路をカメラで撮影した。また学習支援者たちと子どもたちで「互いを傾聴しあう」ワークショップを行なった。コミュニティで多くの子ども・青少年が参加できる活動として、今後も‘KKBS北山田こども放送局活動’を展開して行く。(KKBS: Kitayamata Kids Broadcasting Station)

4) 法人が学習支援の現場に取り入れているICT教育(e-learning)は、パソコンやネット環境が家庭になく、インターネットやネットワークの仕組みについての理解が遅れがちな生活困窮家庭に育つ青少年にとっては、進学や就労で必要となるスキルを身に付ける機会となる。また、学習障がいの見られる成績不良の小中学生に新たな学び方を体験させ学習意欲や興味を持たせる効果がある。今年度、法人は連携組織NPO法人eboardと総務省「ICTドリームスクール実践モデル」に採択された。「NPO法人や自治体等の連携による学習困難者支援モデル」として「傾聴による支援がICT教育の導入にどのような効果を与えるか」の実証実験を行っている。「傾聴する人がいる常設型の居場所」に繋がっている青少年は自己肯定感や学習意欲が高いことが見られた。28年度も継続して実践モデル校として参加する。

5) 研修参加状況は、職員、‘ACN傾聴ワーカー’、学習支援者、大学生ボランティアが、内閣府、横浜市青年相談センター、神奈川県立青少年センター、横浜市北部ユースプラザ、つづきMYプラザ等での青少年問題に関する研修やセミナーに積極的に参加し、また法人主催の「傾聴研修」に参加し、青少年とその家族が抱える問題への理解と傾聴力を深めた。

B「外国につながる家庭の問題」

2014年の統計では、日本で生まれた新生児の29人に1人の親が外国人であった。「外国につながる家庭の問題」は、今後さらに地域社会での大きなテーマとなるであろう。「多文化家族の子育て支援」事業は、TCKs Green Houseグループの当事者支援活動として、母親、父親、学生世代が参加し発展した。働いている父親も参加できる土曜日セミナーを年2回開催した。「都筑区寄り添い型学習等支援事業」にも外国籍の家庭が含まれ、言語の問題や自らのアイデンティティの混乱の問題などが見られる。「外国につながる家庭の問題」は従来の福祉支援の枠組みを超えた新たな横断的支援が必要である。法人の新規事業「横浜に聴くプロジェクト」で扱うテーマの一つが、「多様性に開かれた多文化共生社会の実現」である。

C「障がいと成長の問題」

障がいのある法人会員が講師となり、毎年開催している「障がいと傾聴セミナー」は、生きづらさを抱えた人や障がい当事者の「その人の声を直接に聴き対話すること」を軸に、「障がい」を個人の中にある問題ではなく、社会の中にあるすべての人の問題として今後も事業を展開して行く。「生きづらさをどのように受け容れ、将来に向かって生きる力をいかに育てるか」を学ぶセミナーともなっている。来年度の新規事業「アーモンド・凸凹コミュニティアート・プロジェクト」も発達障がいの問題と深く関係する活動として、生きづらさを抱えるこども・青少年が「自分の声を発する」ことができる場と安心して「自分を表現できる」人間関係をアートの活動の中で育てていくことにある。

D「不登校、ひきこもりの問題」

今年度から「神奈川県フリースペース等事業費補助金事業」を開始した。また連携団体の「つづきMYプラザ」との共催事業「思春期セミナー」を開催した。神奈川県立青少年センターとの共催で「フリ・フリ・フェスタ 2015」（フリースクール・フリースペース等によるフェスティバル）に初参加した。これらの事業を入口として横浜市域を越え神奈川県域からも法人の相談事業につながる親と青少年が増えた。また連携する専門機関や行政機関から当法人を紹介される相談者が増えた。相談・カウンセリングによって親の不安や家族問題を軽減し、取り組みを支える伴走型支援を継続した。さらに今年度は、平日の「傾聴コミュニティカフェ」活動に、不登校やひきこもり傾向の青少年が参加するようになり、自分のペースを取り戻すまで「ACN 傾聴ワーカー」に支えられる「安心の居場所」となっていたことが新しい動きであった。

(2) 「相手の話しをより良く聴くこと」「傾聴活動」を土台とした支援事業を行う・・・

‘ACN 傾聴ワーカー’の活動を推進し、北山田拠点 あ・る・くに於いて、こころを支え合い、健やかに共に生きるために「傾聴コミュニティカフェ」の充実をはかった。さらに、相談事業として新たに神奈川県立青少年センター「神奈川県フリースペース等事業費補助金事業」を開始し、青少年問題に関する相談事業の年間対応件数は面接・同行等は延べ 197 件、電話・メール等は延べ 334 件にのぼった。

(3) 「共生の社会と平和なコミュニティの実現」

多文化共生の推進等に関する事業とコミュニティ活動の推進等に関する事業として「横浜に聴くプロジェクト」を新たに立ち上げた。夜間の勉強会も開始し市民参加型活動として発展させた。この事業と TCKs Green House 事業を合わせると、法人の事業参加者の外国につながる人の国籍は 10 カ国以上にのぼる。

<28 年度に向けて>

法人は「地域社会で聴く力を持つ支援者を育成する」というミッションを掲げ、横浜市内の小中学校 PTA 講座、民生委員・児童委員協議会の全体研修会、都筑区役所主催の支援者研修会、地区センター主催の支援者研修会、インターナショナルスクール PTA 講座等で、子育て中の親や住民ボランティアに傾聴を教え、地域住民同士が支え合い、共に生きる関係作りと場作りの構築を目指した。

‘ACN 傾聴ワーカー’は、「生きづらさを抱える人」を支える活動として法人内のさまざまな領域に傾聴ワーカーとして活動する人が増えた。青少年支援事業の大学生ボランティアや

社会人ボランティアも傾聴研修に参加した。今後は「傾聴の力を育成するプログラム」と共に、「生きづらさの問題背景を学ぶプログラム」をさらに拡充して、‘ACN 傾聴ワーカー’の育成を発展させる。

年度末の法人会員数は、正会員 19 名、賛助個人会員 75 名、賛助団体会員 3 団体で、特に子どもの貧困の問題、障がいの問題、発達障がいの問題、ひきこもり問題への取り組みに対して、多くの方からのご賛助とご支援を頂いた。「こどもの貧困問題」に対しては、マンスリーサポーター(1ヶ月 1000 円規模の寄附×1 年分)の呼びかけにも応えて頂き、徐々に寄附者が増えている。しかし、法人の支援に繋がった子どもたちが社会に出るまでを支えるためには、こどもが長い期間に渡り無料で参加できる経営体制の構築が必要であり、28 年度は法人の経営基盤強化を目指す年となる。

賛助団体会員‘横浜つづきワイズメン&ウィメンズクラブ’からは、法人の日々の学習支援や居場所支援への参加と法人イベントへの応援を年間を通じて頂いた。

来年度に開始する「アーモンド♡こども食堂」には、地域住民や地域福祉団体からの関心が高く、新たな地域連携活動としての事業化を目指す。子どもも高齢者も外国につながる地域住民もひきこもりがちな青少年も参加できる「みんなのための食堂」を運営したい。

<第 5 回「こころを聴こう祭り」報告>

27 年度の「こころを聴こう祭り」は「ネットワーク」をテーマに地域の方々と法人会員と、法人とネットワークを構築している都筑区役所担当課長、NPO eboard 代表、緑区地域子育て支援拠点長、青少年支援の音楽家、大学教授、大学キャリア支援スタッフ等の多彩な支援者の参加があった。

理事長は「寄り添い型学習等支援事業の現場から、地域での子どもの貧困の問題」について、区役所課長は「短時間の学習支援だけでなく居場所を常設する支援効果」について、NPOeboard 代表は法人と連携して気づいたこととして「ICT 教育でも学習支援で一番必要な部分は「人が人を支える」力である」と、ACN 会員の青年の「詩」を元に楽曲を書いたシンガーソングライターは「生きづらさを抱えた青年の世界観」について、地域子育て支援拠点長は「地域で「傾聴」によって繋がってきた ACN とのネットワーク」について、最後に法人副理事長が大学で教える経験から「傾聴と対話を取り入れた授業の効果」について語った。法人設立準備から数えると 5 回目を数える「こころを聴こう祭り」は盛りだくさんな内容であったが、「傾聴を主軸とした支え合う活動」がもたらす素晴らしい変化と可能性について確認しあう集まりとなった。

27 年度は法人にとって、地域活動団体、教育機関、地域保健福祉組織、NPO 組織、行政組織等と、「人と人が繋がる」連携がさらに深まりネットワークの広がった一年であった。

2 事業内容

(1) 特定非営利活動に係る事業

① 子育て支援の推進等に関する事業

「傾聴コミュニティカフェ活動」では、子育て世代のと異世代の地域住民の交流をはかった。親の孤立を防ぐことは障がいや貧困の問題の重篤化を予防し、必要な支援に繋がりがやすくなる。子どもの発達や障がいの問題、家族問題等を抱える若い親が参加し必要に応じて相談機関等も紹介した。また理事長は今年度も地域子育て支援拠点や公立小中学校 PTA、区役所、

地区センター、インターナショナルスクール等に出向き、親や職員へ「こどもの心を聴く傾聴研修」を実施した。

- ・日 時 火曜日と木曜日 10 時～12 時、通年 93 回開催した。
- ・場 所 NPO 法人拠点（都筑区北山田）
- ・従事者人員 5 人
- ・受益対象者 子育て中の親と子(乳児～40 代が参加)
延べ 23 人
- ・支出額 0 円

② 青少年の健やかな成長の推進等に関する事業

ア 「寄り添い型青少年支援事業 ‘ともにあ・る・く’ フリースペース事業」

傾聴によるこころの支援、居場所支援、学習支援、相談支援、就労支援等。16 歳～20 歳代の参加者が、落ち着いた環境で自分のペースを取り戻し、将来への再スタートを切るために実施した。27 年度は都筑区社会福祉協議会「つづき ふれあい助成金」を受託した。‘ACN 傾聴ワーカー’ が居場所支援を担い効果をあげた。

- ・日 時 通年 50 日間
- ・場 所 NPO 法人拠点（都筑区北山田）
- ・従事者人員 8 人
- ・受益対象者 ひきこもり、ニート、中途退学、不登校問題を抱える 16 歳～20 歳代、生活困窮世帯の青少年、「都筑区寄り添い型学習等支援事業」卒業生と、地域で未だ支援に繋がっていない高校学齢以上の青少年
延べ 147 人
- ・支出額 313,412 円

イ 「都筑区寄り添い型学習等支援事業 ‘いっしょに あ・る・く’」

都筑区役所こども家庭支援課、生活支援課との協働事業。北山田の法人拠点で、生活困窮者自立支援法の趣旨に基づき、複合的課題を抱える世帯の小・中学生を対象に、傾聴によるこころの支援、学習支援、居場所支援、相談支援、生活支援等を実施した。学習面の支援に加えて、脆弱な養育環境に配慮し、子どもをこころを支えるために、居場所で受容的な人間関係を築くことを目指した。学齢に関わらず基礎からの学習支援と、いつも笑いのある明るい居場所の環境を作った。NPO 法人 eboard の協力で ICT 教育を導入し学習効果をあげてきた。

*複合的課題を抱えた世帯とは・・・不登校、生活保護、外国籍家庭、ひとり親（多くが母子家庭）、親のメンタルや身体の疾病、親の引きこもり、家族や兄弟姉妹の障がい等の問題が、複合的に重なり合っている世帯。都筑区の状況は生活保護世帯に母子世帯と障がい者世帯が多い。

- ・日 時 月曜日～金曜日の 13 時～20 時、年間 240 日間、1680 時間を開催した。
- ・場 所 NPO 法人拠点（都筑区北山田）
- ・従事者人員 18 人
- ・受益対象者 複合的な課題を抱えた世帯の小・中学生（生活保護世帯を含む）33 名と保護者
延べ 1674 人（内生活保護世帯 1195 人）（小学生～50 代が参加）
- ・支出額 8,577,149 円

*法人理事長は平成 27 年度「横浜市子どもの貧困対策に関する計画策定のための策定連絡会」（総勢 20 名）の有識者として委嘱を受け委員として 28 年度計画策定のための会議に加わった。

ウ 「思春期問題、不登校問題からの道しるべ～MY Café」事業

神奈川県からの「フリースペース等事業費補助金事業」によって、不登校やひきこもりの相談件数が増えた。子どもの不登校の問題を抱える親のために安心して話せる居場所を通年で毎月2回開催した。‘ACN 傾聴ワーカー’が悩みを傾聴した。必要に応じて親と子を対象とした理事長（心理カウンセラー）の個別相談を実施した。‘ACN 傾聴ワーカー’とスタッフは、内閣府、横浜市青年相談センター、横浜市ユースプラザ、神奈川県立青少年センターでの「青少年問題」研修に積極的に参加し、青少年問題への理解を深めた。

- ・日 時 通年 55 回
- ・場 所 NPO 法人拠点（都筑区北山田）、つづき MY プラザ（都筑区中川中央）4
- ・従事者人員 6 人
- ・受益対象者 子どもの不登校、ひきこもり、思春期問題等をかかえる保護者、家族、関係者 延べ 55 人（10 代～70 代が参加）
- ・支出額 13,390 円

エ 「‘KKBS 北山田こども放送局活動’」

今年度は「都筑区寄り添い型学習支援事業 ‘いっしょに あ・る・く’」のイベントとして実施した。支援者ひとり一人が語るさまざまな経験をこどもが傾聴し、互いに対話し、将来に向けて自らの生活と仕事を考えるための活動とした。（これまでの活動：地域で障がい者福祉事業を推進する NPO 法人の取材。アート作品の動画制作活動。他）

- ・日 時 夏休み期間に 2 回（8/11, 8/18）
- ・場 所 NPO 法人拠点（都筑区北山田）、都筑区内の福祉活動 NPO 法人
- ・従事者人員 6 人
- ・受益対象者 地域の子ども・青少年と法人事業参加の子ども・青少年（10 代～20 代が参加） 延べ 9 人
- ・支出額 1,914 円

オ 「生きづらさを抱えた子ども・青少年と家族のための寄り添い型相談事業」

神奈川県フリースペース等事業費補助金事業として相談事業を開始した。当初の予想よりも相談の要望件数が多く、193 日開催予定を 200 日開催とした。電話とメールでの初回相談から面接相談を行ない、生きづらさを抱えた子ども・青少年と家族を支えた。電話、メール、面談、訪問・同行により、助言、他機関の紹介、情報提供等を行なった。発達障害、ひきこもり、不登校、非行、精神保健、就労関係、学校関係、対人関係、家庭問題、児童福祉、健康問題、生活問題等を扱った。生活保護世帯の青少年と親に対しては相談料の減免制度を設けた。

- ・日 時 200 日 月曜日～土曜日の内の週 4 日
- ・場 所 NPO 法人拠点（都筑区北山田）、神奈川県内
- ・従事者人員 2 人
- ・受益対象者 不特定の青少年とその家族、関係者（10 代～70 代が参加） 延べ 531 人
- ・支出額 1,635,016 円

③ 多文化共生の推進等に関する事業

多文化多言語背景にある子どもと親のための「多文化家族の子育て支援事業」を運営した。

日本のグローバル化による地域住民の抱える問題を、傾聴によるこころの支援、居場所での支援、相談支援、言語教育への支援等で行なった。「人と人とを隔てる様々な問題」を語り合い傾聴しあう当事者グループ ‘TCKs Green House’ 活動と年2回のセミナー開催を行った。‘ACN 傾聴ワーカー’ が居場所支援を担い効果をあげた。

- ・日 時 通年 11 回（毎月 1 回）とセミナー開催（5/23、1/30）
- ・場 所 NPO 法人北山田拠点、かけはし都筑（都筑区社会福祉協議会）
- ・従事者人員 5 人
- ・受益対象者 外国につながる親と子・国際結婚をしている親（幼児～60 代が参加）
延べ 91 人
- ・支出額 44,736 円

④ 障がい者支援の推進等に関する事業

「多様性、個性、障がいを支え育てるための傾聴セミナー」を「傾聴」を学んだ障がい当事者の法人会員と法人理事で企画運営した。生きづらさを抱える人を支える「傾聴」の働きについて、地域住民と共に深く学んだ。

- ・日 時 年 1 回（6/16）
- ・場 所 都筑区社会福祉協議会かけはし都筑
- ・従事者人員 4 人
- ・受益対象者 障がいのある人とその家族、支援者、子育て中の親、地域住民
延べ 20 人（20 代～70 代が参加）
- ・支出額 0 円

⑤ 高齢者支援の推進等に関する事業

「傾聴コミュニティカフェ活動」は、乳幼児から高齢者までの異世代の地域住民が出逢い、交流をはかる場として発展してきた。‘ACN 傾聴ワーカー’ が担い手となり、高齢者が気軽に参加できる場を運営した。子育て中のお母さん、外国に繋がる地域住民、不登校の高校生、ひきこもりがちな青年男女、こころが疲れている人が、自分のペースで参加できる居場所となった。カフェの活動では、高齢の‘ACN 傾聴ワーカー’ と「生きづらさを抱える」参加者の「生き甲斐」「やり甲斐」「自己肯定感」が高まる効果が見られた。新たに‘ACN 傾聴ワーカー’ がコラージュ制作活動を毎月企画し、年齢に関係なく気軽に参加できるアート活動を実践した。

- ・日 時 火曜日と木曜日 10 時～12 時、通年 93 回開催した。
- ・場 所 NPO 法人拠点（都筑区北山田）
- ・従事者人員 7 人
- ・受益対象者 地域住民（乳児から 70 代が参加）
延べ 104 人
- ・支出額 9,870 円

⑥ コミュニティ活動の推進等に関する事業

ア 「横浜に聴くプロジェクト」

「多文化共生社会の実現」と「横浜の歴史と文化と市民をテーマとする」プロジェクトとしてスタートした。法人理事（米国人日本歴史学者）が指導し、「横浜ヤンキー」（レスリー・ヘル

ム著/横浜で150年に渡る歴史あるヘルム家の歴史)をテキストに夜の勉強会と昼間のツアーを開始した。参加者同士が相互に傾聴しあい理解を深めあうことで、自分たちの住む横浜というコミュニティへの意識が変わっていくことが成果としてあった。来年度は横浜市後援事業となり、著者ヘルム氏を米国から招き特別講演会を開催する。

- ・日 時 通年2回(2/11, 3/11)
- ・場 所 横浜市内とNPO法人拠点(都筑区北山田)
- ・従事者人員 4人
- ・受益対象者 横浜地域コミュニティに関心ある市民と多文化共生社会実現に関心ある市民と外国につながる親子・国際結婚の市民(10代~70代が参加)
延べ16人
- ・支出額 16,730円

イ 「アートワークショップ」事業

ACN会員のアーティスト(イタリア在住)の指導でアート作品制作を行なった。今年度は横浜市歴史博物館の大塚歳勝土遺跡での展覧会(都筑アートプロジェクト主催)での講師発表作品と連動して「BOOK CHILDREN BOOK “Rabbit’s Adventures Under Ground”」のテーマで制作した。地域住民のリピーター参加者が多い「アーティストブック制作」の活動で、今年も小学生から後期高齢者までが参加した。

来年度に向けて、設立当初からアート事業で連携してきたイタリア・ペルージャのアーティスト達も参加する新たな事業「アーモンド・凸凹コミュニティアート・プロジェクト」のスタートを切った。アーティストたちと法人の青少年支援者の大学生や個性的な青年たちが協働して、発達に偏りのある凸凹な個性豊かな青少年と親をコミュニティアートでサポートする。アートで自己表現することで参加者の「自己肯定感」や「自信力」が育成されることを目的とする。法人設立当初に青少年支援活動として始まった「アートワークショップ」事業がさらに発展し、来年度からはアーティストと協働する「コミュニティアート」事業として運営される。

- ・日 時 通年4回(10/10 午前・午後、10/11、12/26)
- ・場 所 NPO法人拠点(都筑区北山田)
- ・従事者人員 4人
- ・受益対象者 地域住民の青少年、成人、高齢者(10代~70代が参加)
延べ32人
- ・支出額 40,041円

⑦上記の事業に関連する教育・学習・研修・啓発・相談に関する事業

「寄り添い型学習等支援事業における傾聴活動とICT教育」

傾聴による支援活動の効果とICT教育の働きを伝える目的のセミナーを、NPO法人eboardから理事長を招いて開催した。法人の学習支援に携わる社会人・大学生ボランティアが参加し、また地域住民の参加者に「こども貧困の問題」に対しての傾聴による支援やICT教育の果たす役割について啓蒙することができた。

- ・日 時 通年2回(7/18、1/12)
- ・場 所 横浜市都筑区内
- ・従事者人員 6人
- ・受益対象者 テーマに関心のある地域住民(20代~70代が参加)

- 延べ 17 人
- ・支出額 0 円

⑧その他この法人の目的を達成するために必要な諸事業

ア 「こころを聴こう祭り」

法人の歩みを伝え、現在の活動を地域社会にひろく知らせ「傾聴」の意義を啓蒙する目的と会員相互の交流をはかる行事として開催した。また ACN 傾聴ワーカー育成の目的で「傾聴セミナー」も行った。NPO 法人設立 4 年目となり、連携している行政組織、NPO 組織、地域保健福祉組織、教育機関との「人と人の繋がりネットワーク」の広がりを確認した祭りとなった。

- ・日 時 通年 1 回 (2/20)
- ・場 所 都筑区社会福祉協議会 かけはし都筑
- ・従事者人員 10 人
- ・受益対象者 傾聴に興味のある法人会員と地域住民 (20 代～70 代が参加)
延べ 39 人
- ・支出額 48,500 円

イ 「ACN 企画室ぶいぶい」

「自分のことをありのままに話せる場」として、コミュニケーションワークショップを行ってきた。今年度「アーモンド・凸凹コミュニティアート・プロジェクト」を生み出すきっかけとなった活動で、「生きづらさを抱える」青少年のための活動を企画している。またゲームやアニメやインターネットといったツールを使って異年齢の地域住民が参加できる活動も展開する。

- ・日 時 通年 1 回 (7/18)
- ・場 所 NPO 法人拠点 (都筑区北山田)
- ・従事者人員 3 人
- ・受益対象者 10 代後半～30 代の青少年と支援者 (10 代～50 代が参加)
延べ 12 人
- ・支出額 0 円

<平成 27 年度の受託事業、助成金・補助金事業の実績>

- ・「都筑区寄り添い型学習等支援事業 いっしょにあ・る・く」
横浜市都筑区役所より受託、子ども家庭支援課・生活支援課との協働事業
- ・「ACN 寄り添い型青少年支援 ともにあ・る・く」
都筑区社会福祉協議会 ふれあい助成金事業 (地域福祉保健計画推進事業として)
- ・「生きづらさを抱えた子ども・青少年と家族のための寄り添い型相談事業」
神奈川県立青少年センター「神奈川県フリースペース等事業費補助金事業」
- ・「多文化・多言語家族の子育て支援 ～TCKs の児童・思春期から青年期」セミナー
都筑区社会福祉協議会 年末たすけあい募金助成事業
- ・第五回「こころを聴こう」祭り
『傾聴による支援とネットワーク ‘生きづらさを支える～子どもの貧困～’]
都筑区社会福祉協議会 年末たすけあい募金助成事業

<平成 27 年度の法人の主な行事・連携事業・研修講師、等>

- 4 月 18 日(土) 理事会
- 4 月 30 日(木) 都筑区役所 畑澤健一 新任区長が視察(北山田拠点あ・る・く)
- 5 月 8 日(金) 効果測定方法について国連研究員とミーティング(北山田拠点あ・る・く)
- 5 月 9 日(土) 会計監査
- 5 月 23 日(土) TCKs Green House「多文化家族の子育て」セミナー開催(かけはし都筑)
(講師 エスキルドセン ロバート副理事長)
- 6 月 13 日(土) 第三期 法人通常総会(北山田拠点あ・る・く)
- 6 月 16 日(火) 「障がいと傾聴セミナー」共催事業開催(講師 笠羽美穂会員)(かけはし都筑)
- 6 月 21 日(日) 思春期セミナー 4 法人共催事業(NPO アーモンド コミュニティ ネットワーク、
- 6 月 22 日(月) // つづき MY プラザ、認定 NPO コロンブスアカデミー、認定 NPO アットホーム)
- 6 月 24 日(水) 北部地域若者支援連絡会に出席(北部ユースプラザ)
- 7 月 10 日(金) 緑区地域子育て拠点主催「気になる子のサロン」傾聴研修セミナー講師
- 7 月 18 日(土) 理事会・「企画室ブイブイ」開催
- 7 月 22 日(水) 第一回横浜市子どもの貧困対策に関する計画策定連絡会に理事長が出席
- 7 月 22 日(水) 横浜市健康福祉局長が北山田拠点「都筑区寄り添い型学習等支援事業」を視察
- 7 月 27 日(月) 子育て支援スタッフ「傾聴研修会」講師(緑区地域子育て支援拠点「いっぼ」主催)
- 7 月 28 日(火) 「共に生きる～こころを聴く「傾聴」セミナー」講師(NPO 法人みんなの家主催)
- 8 月 11 日(月) 北山田子ども放送局(KKBS)活動(北山田拠点あ・る・く)
- 8 月 18 日(月) 北山田子ども放送局(KKBS)活動(北山田拠点あ・る・く)
- 9 月 4 日(金) 「子ども・若者育成支援のための地域連携推進事業」研修会へ職員数名が出席
(内閣府主催)
- 9 月 12 日(土) 「フリースクール・フリースペース・フェスタ」参加(神奈川県立青少年センター)
- 9 月 16 日(水) 青少年の居場所・地域活動拠点連絡会に職員が出席(よこはまユース)
- // 北部地域若者支援連絡会に出席(横浜市北部ユースプラザ)
- 9 月 19 日(土) 理事会
- 9 月 29 日(火) 「こどもの心を聴く」傾聴セミナー講師(中川西地区センター主催)
- 10 月 3 日(土) YOU&I コンサート開催(都筑区公会堂 YOU&I コンサート運営委員)
- 10 月 6 日(火) 「こどもの心を聴く」傾聴セミナー講師(中川西地区センター主催)
- 10 月 9 日(金) 「アーモンド・凸凹コミュニティアート・プロジェクト」企画ミーティング
- 10 月 10 日(土) アートワークショップ開催(講師 牧田あゆみ会員)(北山田拠点あ・る・く)
- 10 月 11 日(日) アートワークショップ開催(北山田拠点あ・る・く)
- 10 月 23 日(金) 公益財団法人よこはまユースと南区役所職員が来所
- 10 月 26 日(月) 第二回横浜市子どもの貧困対策に関する計画策定連絡会に理事長が出席
- // 都筑区役所生活支援課会議に理事長が出席
- 11 月 12 日(水) 第三回横浜市子どもの貧困対策に関する計画策定連絡会に理事長が出席
- 11 月 13 日(木) 「思春期のこころを聴く」傾聴セミナー 講師
(横浜市立港南中学校・桜岡小学校・吉原小学校主催)
- 11 月 16 日(火) 「こどもの心を聴く」傾聴セミナー 講師(中川西地区センター主催)
- 11 月 21 日(土) 理事会
- 12 月 5 日(土) 都筑区社会福祉大会(都筑公会堂)に職員が参加(運営実行委員)
- 12 月 8 日(火) 「民生委員・児童委員に求められる傾聴について」研修会の講師
(横浜市内公会堂 南区民生委員・児童委員協議会全体研修会/参加者250名)
- 12 月 18 日(金) 「こどものこころを聴く」セミナー講師

- (都田小学校コミュニティハウス 都筑区役所主催)
- 12月26日(土) アートワークショップ開催 (講師 牧田あゆみ会員)
 // 理事会
- 12月28日(月) ‘いっしょにあ・る・く’年末イベント (都筑区寄り添い型学習等支援事業)
- 1月4日(月) 理事会
 // 新年会「オランダの教育」DVD鑑賞会と茶話会 + NPO eboard「ICT教育」講演
- 1月12日(火) 「ICT教育について」セミナーNPO eboard 中村孝一代表講演(北山田拠点あ・る・く)
- 1月22日(金) 理事会
- 1月27日(水) 北部地域若者支援連絡会に出席 (横浜市北部ユースプラザ)
- 1月30日(土) TCKs Green House 「多文化家族の子育て」セミナー (講師 園田ヘアトリス)
 (かけはし都筑)
- 1月31日(木) 理事会
- 2月10日(水) 神奈川県立田奈高校からICT教育の現場視察 (北山田拠点あ・る・く)
- 2月12日(金) 「横浜に聴くプロジェクト～勉強会」開催 (講師 エスキルドセン ロバート)
- 2月15日(月) 第四回「横浜市子どもの貧困対策に関する計画策定連絡会」に理事長が出席
- 2月17日(水) 都筑区役所生活支援課会議に理事長が出席
- 2月20日(土) 法人周年事業 第5回‘こころを聴こう祭り’開催 (かけはし都筑)
- 2月25日(木) 北部地域若者支援連絡会に出席 (横浜市北部ユースプラザ)
- 3月11日(金) 「横浜に聴くプロジェクト～勉強会」開催 (講師 エスキルドセン ロバート)
- 3月21日(土) 理事会
- 3月23日(水) 「こどもの心を聴く」傾聴セミナー講師
 (セントメリーズインターナショナルスクールJSSG主催/東京都世田谷区)
- 3月29日(火) いっしょにあ・る・く「春を祝う会/入学・進学おめでとう」開催(北山田拠点あ・る・く)

<協力団体の通年セミナー>

- ・傾聴ボランティア研修&精神保健福祉サロン You&Me (中川地域ケアプラザ) ・傾聴の広場
- ・12 Baskets Full 「思春期のこころを聴く」 ・アーモンドの会～こころを聴くカウンセリング勉強会～

(以上、講師名の明記がないセミナーは全て理事長が担当)

以上。